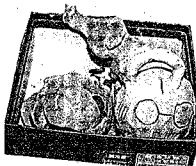


“学校復帰の力”をはぐくむ

「子どもたちが丸ごと受け止めて」

レインボールームの活動時間は、午前九時から十二時までとなっている。相談員が「子どもたちの中には、周囲の人の目や気にしながらこへ来る子どももいて、朝から来る子どもあれば、午後から来る子どもいます」と話すように、子どもたちは通学しやすい時間を選んでここにきて、興味や関心のあることとして過ごす。ルームの本棚には本が並べられ、囲碁や将棋の道具、トランプ、折り紙なども置いてあり、ビデオも見られ、お茶も飲める心の休まる環境である。

レインボールームでは年三回、一日体験入教教室を開いている。この体験入教教室は、家庭に閉じ込められ不登校の子が、外に足を向けられれば、「という思いから実施している。」「親子でレインボールームを見学し、雰囲気を知っていただけ」などと相談員は話す。



レインボールームの子どもたちが作った粘土細工

また、夏と秋には市内の小・中学校の適応指導学級の子ともたちと一緒に交流会を開いている。昨年の八月には鹿瀬町・赤崎山登山で良い汗を流し、十月には五頭山のふもとで、炊飯やハイキングなどをした。こうした行事を通して、子どもたちは自らを素直に表現し、相手も受け入れ、力を合わせて活動する姿が見られたそうである。

不登校になる原因を特定するのは難しい。不登校になり、親は「まさか、うちの子が」と驚き、あわてて、原因はどこにあるのか、いろいろ考えても思い当たらぬ所がない。「どうしたらいいでしょう」と、そんな悩みを持つ、レインボールームを訪れる親子が多い。相談員は心身ともに疲れた親の顔を見ながら、「お父さんは疲れているのではありません。疲れて、疲れて、我慢も限界なんだ」と叫んでいる。あきらめず、それから子どもを元気づける方法と一緒に考えてみませんか」と言葉をかけてる。そのように、子どもも不登校に切ない毎日を送る親に、温かい言葉をかけるのも相談員の仕事の一つである。

レインボールームに通う子の数は増えていく。しかし、不登校の子がすべてレインボールームへ通っているわけではない。また、夏と秋には市内の小・中学校の適応指導学級の子ともたちと一緒に交流会を開いている。昨年の八月には鹿瀬町・赤崎山登山で良い汗を流し、十月には五頭山のふもとで、炊飯やハイキングなどをした。こうした行事を通して、子どもたちは自らを素直に表現し、相手も受け入れ、力を合わせて活動する姿が見られたそうである。

不登校になる原因を特定するのは難しい。不登校になり、親は「まさか、うちの子が」と驚き、あわてて、原因はどこにあるのか、いろいろ考えても思い当たらぬ所がない。「どうしたらいいでしょう」と、そんな悩みを持つ、レインボールームを訪れる親子が多い。相談員は心身ともに疲れた親の顔を見ながら、「お父さんは疲れているのではありません。疲れて、疲れて、我慢も限界なんだ」と叫んでいる。あきらめず、それから子どもを元気づける方法と一緒に考えてみませんか」と言葉をかけてる。そのように、子どもも不登校に切ない毎日を送る親に、温かい言葉をかけるのも相談員の仕事の一つである。

レインボールーム訪問二日目。あの囲碁が好きな子とオセロや将棋をやる。彼はオセロをしながら「おじさん、結婚してるの。子どもはいるの」と結婚記念日って覚えてる。「いろいろな「取材」してくる。私たちのオセロ対決を、今日も弁当持参の女の子たちが観戦する。

三日目、子どもたち五人とトランプをする。途中、小学生の

子どもたちが丸ごと受け止めて

「不登校の子といっても、自宅から一歩も出ない子、教室は無理でも保健室へ行く子、レインボールームへ来る子などいろいろです。私たちは、そのような子どもたちを、まず丸ごと受け止めることにしています」と、相談員は子どもたちに目を向け

レインボールームで力を付け、学校へ復帰した子もいる。毎日は無理でも週に二、三回という子もいる。不登校の子にとって学校へ行くということとは勇気があると同時に、大きな前進でもある。家庭と学校と心を通じ合ひ、できる限り支援していくことが、学校復帰の大きな力になる。親からは「不登校になり苦しみ再び学校へ戻る中で、子どもは精神的にも大きくなったみたいですよ」といった言葉が聞かれるそうだ。

子どもの思いを大切に

「子どもの気持ちは分からないことが多いんです。ただ、子どもは親が今の自分を受け入れてくれるとうれしいんです」と相談員は話す。親はありのままの子どもを受け入れることがなかなかできないものだ。

「大人が自分の子育ての問題点に気づかないことも多いようです。親が親の役割を十分果たせないケースもあり、親の教育力は低下しています。とにかく、幼児期からの子育てが大切です。子育てで大切なのは、親が子どもにどれだけ愛をかけたとか、叱咤・激励したかよりも、どれだけ子どもが思いや考えを

子どもが真ん中

“学校復帰の力”をはぐくむ

レインボールーム訪問経験を通して

広報二月一日号で、「不登校・傷ついた人たちが不登校を知らない人たちに」を特集しました。その後、市民から電話や手紙をいただいたりした。が、声の中には、「子どもが不登校になり悩んでいる。情報がなく、どうしたらいいかわからない」といったものもありました。

今号では、市で開設している適応指導教室（愛称「レインボールーム」）での子どもたちの様子にふれながら、市の不登校対策について紹介します。

新津市適応指導教室（レインボールーム）

レインボールームで学校復帰の“力”を

「おはようございます」「おはようございます」午前九時を過ぎるころから、レインボールームへ通う子どもたちが教育センター相談部の事務室のドアを開ける。「〇〇くん、おはよう」と返す教育相談員（以下相談員）。

平成五年四月、新津市適応指導教室（愛称「レインボールーム」）が図書館内に開設された。レインボールームは、市内の児童、生徒のうち、学校に行きたくても行けない子どもたちに対し、カウンセリングや集団生活への適応指導、教科指導、体験活動などを行い、子どもが学校

生活へ復帰できる“力”をはぐくむ教室である。

四名でスタートした教室も、平成九年度は三十二名（小学生四名、中学生二十八名）を数える。四名の相談員は「不登校の子の数は増えていきます。しかし、レインボールームに足を運ぶだけでも、その子に少し力が付いた証である」と話してくれた。

長野五輪が始まったころ、私はレインボールームを訪ねた。中へ入ると、中学生が六名、小学生が一名いる。「おはよう」と声をかけると、「おはようございます」と言葉が返ってくる。

一人の女の子が「ねえ、横網の噂が噂したんだって」と

「不登校の子といっても、自宅から一歩も出ない子、教室は無理でも保健室へ行く子、レインボールームへ来る子などいろいろです。私たちは、そのような子どもたちを、まず丸ごと受け止めることにしています」と、相談員は子どもたちに目を向け

レインボールームで力を付け、学校へ復帰した子もいる。毎日は無理でも週に二、三回という子もいる。不登校の子にとって学校へ行くということとは勇気があると同時に、大きな前進でもある。家庭と学校と心を通じ合ひ、できる限り支援していくことが、学校復帰の大きな力になる。親からは「不登校になり苦しみ再び学校へ戻る中で、子どもは精神的にも大きくなったみたいですよ」といった言葉が聞かれるそうだ。

「不登校の子といっても、自宅から一歩も出ない子、教室は無理でも保健室へ行く子、レインボールームへ来る子などいろいろです。私たちは、そのような子どもたちを、まず丸ごと受け止めることにしています」と、相談員は子どもたちに目を向け

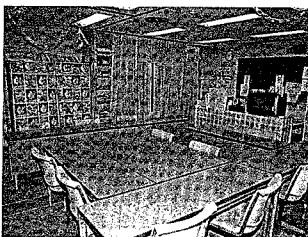
レインボールームで力を付け、学校へ復帰した子もいる。毎日は無理でも週に二、三回という子もいる。不登校の子にとって学校へ行くということとは勇気があると同時に、大きな前進でもある。家庭と学校と心を通じ合ひ、できる限り支援していくことが、学校復帰の大きな力になる。親からは「不登校になり苦しみ再び学校へ戻る中で、子どもは精神的にも大きくなったみたいですよ」といった言葉が聞かれるそうだ。

「不登校の子といっても、自宅から一歩も出ない子、教室は無理でも保健室へ行く子、レインボールームへ来る子などいろいろです。私たちは、そのような子どもたちを、まず丸ごと受け止めることにしています」と、相談員は子どもたちに目を向け

レインボールームで力を付け、学校へ復帰した子もいる。毎日は無理でも週に二、三回という子もいる。不登校の子にとって学校へ行くということとは勇気があると同時に、大きな前進でもある。家庭と学校と心を通じ合ひ、できる限り支援していくことが、学校復帰の大きな力になる。親からは「不登校になり苦しみ再び学校へ戻る中で、子どもは精神的にも大きくなったみたいですよ」といった言葉が聞かれるそうだ。

「不登校の子といっても、自宅から一歩も出ない子、教室は無理でも保健室へ行く子、レインボールームへ来る子などいろいろです。私たちは、そのような子どもたちを、まず丸ごと受け止めることにしています」と、相談員は子どもたちに目を向け

レインボールームで力を付け、学校へ復帰した子もいる。毎日は無理でも週に二、三回という子もいる。不登校の子にとって学校へ行くということとは勇気があると同時に、大きな前進でもある。家庭と学校と心を通じ合ひ、できる限り支援していくことが、学校復帰の大きな力になる。親からは「不登校になり苦しみ再び学校へ戻る中で、子どもは精神的にも大きくなったみたいですよ」といった言葉が聞かれるそうだ。



「おじさん、先を読んで碁を打たないでだめだよ。結局、勝負は大差で敗れた。ペラндаでは男の子二人が卓球をしている。仲間に入れてもらい、一緒に卓球をするが、中学生に次々とスマッシュを決められる。時計が十二時を指すころ、何人かの子どもたちはレインボールームを後にする。教室には二、三人の子どもたちが弁当を広げる。「今日の弁当、私が作ってきたんだ。ほらグラタン」とはしゃぐ女の子。

「元気がいい子ともいますね」と相談員に聞くと、「元気があり、笑い声もあり、（？）として、あんなに元気な（？）と思ってしまう。確かに表情をみると元気いっぱいだけれど、このレインボールームだから元気が出るのかもしれない」と話してくれた。

お買物、ご用命は市内で

お買物、ご用命は市内で

ゴルフスクール生募集!!

第7回新津市民ゴルフスクール
3/3 (火) PM6:45~PM8:15 (初心者コース全12回)
3/4 (木) PM2:00~PM3:30 (初心者コース全12回)
PM6:45~PM8:15 (経験者・継続者コース全12回)
3/7 (土) PM6:45~PM8:15 (初心者コース全12回)
※各コース共1クール12回単位の受講制に付き、途中退校はできません(振替可)
※各コース共1クール12回21,000円(消費税込)、ボール代別、途中入校可(割引有)

ビッグ・クレストゴルフスクール
3/3 (火) PM2:00~PM3:30 PM8:30~PM10:00 (ベシクコース全24回) (ベシクコース全24回)
3/4 (木) PM8:30~PM10:00 (スイングコース全16回)
3/5 (木) PM6:45~PM8:15 PM8:30~PM10:00 (ベシクコース全24回) (ベシクコース全24回)
3/7 (土) PM2:00~PM3:30 PM8:30~PM10:00 (スイングコース全16回) (スイングコース全16回)
※各コース共1クール8回単位の受講制に付き、1クール8回で退校可 ※各コース共1クール8回16,800円(消費税込)、ボール代別、途中入校可(割引有)

壁紙・ふすま・しょうじ貼替でリフレッシュしてみませんか!!

ふすま1枚2500円より 壁紙1M1300円より

建設業興知事許可(設-8)第26247号
一級技師 職業訓練指導員免許

熊木室内装飾

中沢町 3-3 TEL・FAX 23-3510



ビッグ・クレストゴルフスクール
新津市大森町1-1-1 TEL:0252-23-3510
ラメン・ゴルフ・センター・ビル内